日本ロールシャッハ学会主催

東北地区
初開催

第17回
ロールシャッハ研修会

ロールシャッハ法の所見を考える
～深く理解し わかりやすく伝える～

2025年5月18日（日）

＠東北福祉大学
仙台駅東口キャンパス

研修会プログラム

9:30～受付

10:00～12:00　分科会

A ライブスーパーヴィジョンを通して心理アセスメントの訓練・現場指導を考える
B 犯罪・非行臨床における心理査定
C 力動的理解にもとづくロールシャッハ法

詳細は裏面へ

13:15～16:15　全体会

ミニレクチャー「ロールシャッハ検査の所見の書き方」
分科会振り返り（各分科会講師・事例発表者）・全体討論

定員および受講資格

定員：120名（各分科会40名程度）先着順　　※申込み期間2024年10月19日～2025年4月18日
受講資格：臨床心理士もしくは公認心理師，臨床心理学や精神医学を専門とする専門職，
または　臨床心理学の大学院生で守秘義務を課せられている方
＊なお，日本臨床心理士資格認定協会の研修ポイント（２ポイント）が認められています

参加費

日本ロールシャッハ学会	正会員	6,000円
	非会員	7,000円
	大学院生	2,000円

https://00m.in/pCWuv
お申込みはコチラから

お問合せ：第17回ロールシャッハ研修会準備委員会
rorschach.sendai2025@gmail.com

詳しくは学会ＨＰをご覧下さい　https://jsrpm.jp

分科会とミニレクチャー

分科会A 「ライブスーパーヴィジョンを通して心理アセスメントの訓練・現場指導を考える」
髙橋 靖恵 先生（京都大学大学院・油山病院）

京都大学大学院教育学研究科臨床心理学講座教授．名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学．博士(教育心理学)．九州大学大学院人間環境学研究院准教授を経て，現職．臨床心理士，日本精神分析協会精神分析的精神療法家，家族心理士，公認心理師．
著書：『心理臨床実践において「伝える」こと　セラピストのこころの涵養』（福村出版 2024年）他

心理アセスメントが適切に心理療法に活かされるためには，依頼に応じてテストバッテリーを組む工夫，実施しながらも検査順を考えること，結果のまとめからフィードバックの仕方までの一連の作業が大切になります．そのひとつひとつの基礎教育は大学から大学院にてカリキュラムに組み込まれているでしょう．しかし，現場での実践経験によって，これらの統合の困難さに突き当たります．そこで重要なのが，心理アセスメントのスーパーヴィジョンや研修会での参加・発表となります．一方で，まだ研修を積み重ねていきたいと考えている若手の臨床家が，現場で新人指導に当たることも想定されます．本分科会では，ライブスーパーヴィジョンを通して，現場の指導者を含むスーパーヴァイザーとスーパーヴァイジー双方を対象に研修機会を提供したいと思います．事例をもとにした細かなやりとりから，指導者としての在り方，現場での実地指導者としての工夫について，学びを深めて頂けるように進めていきます．

分科会B 「犯罪・非行臨床における心理査定」
菅藤 健一 先生（福島学院大学）

1979年 法務省 盛岡少年鑑別所に奉職後，各地の少年鑑別所・刑務所の勤務を歴任．2017年東北大学大学院教育学研究科にて博士(教育学)を取得し，山形大学地域教育文化学部教授を経て福島学院大学福祉心理学科教授，同大学院心理学研究科研究科長．公認心理師，臨床心理士．
論文：『描画法による無期刑受刑者の心情把握について』（山形大学心理教育相談室紀要 2020年）他

事例提供者からは犯罪・非行事例を提供いただいてそのプロトコルの特徴について検討いたします．また，犯罪・非行臨床におけるロールシャッハテスト活用の現状と今後の方向性についてフロアの方々と討議したいと思っています．

分科会C 「力動的理解にもとづくロールシャッハ法」
吉村 聡 先生（上智大学）

早稲田大学文学研究科博士後期課程単位取得退学．東北大学教育学研究科講師等を経て，2019年より上智大学総合人間科学部教授．総合病院や開業臨床にて臨床実践を積む．精神分析家(日本精神分析協会会員)，臨床心理士，博士(文学)．
著書：『ロールシャッハテストの所見の書き方』（岩崎学術出版社 2016年 共編著）他

ロールシャッハ法は情報の宝庫です．しかし，とりわけ初学者の解釈や所見には，解釈が一面的になったり，膨大な情報を活かしきれなかったり，ロールシャッハ用語で記述しただけなどの例が散見されます．この分科会では，精神分析的な考えを背景にもつことで，ロールシャッハ法を通して統合的に事例を理解するための視点を学びます．ロールシャッハ体系は片口法・馬場法・包括システムのいずれかに拠る予定ですが，これ以外の方のご参加も歓迎します．

ミニレクチャー 「ロールシャッハ検査の所見の書き方」
加藤 志ほ子 先生（南青山心理相談室 顧問）　　司会：吉村 聡 先生

1966年慶應義塾大学医学部精神神経科入局，臨床心理士，日本精神分析学会認定心理療法士スーパーバイザー．東京済生会中央病院精神神経科嘱託，大妻女子大学大学院非常勤講師，帝京大学文学部心理学科教授などを経て，北山研究所・南青山心理相談室 顧問．
著書：『ロールシャッハテストの所見の書き方』（岩崎学術出版社 2016年 共編著）他

心理臨床の領域で，心理検査による査定業務は大切な役割があります．特に「ロールシャッハ検査の所見の書き方」は，依頼された医師，心理面接担当者，他職種などとクライエント理解を共有する大切なツールです．サマリーの主要な数値と，反応語などから，どのような理解をしたかわかるように記述し，その有り様を病態水準と継なげて報告できると臨床場面で役に立つ報告書になるのではないでしょうか．どういう反応語から自分がどういう理解をしたかを，わかるように書ける工夫について考えていきたいと思います．